

～親子の数だけ親子の物語～

OYAKO

-present to the future-



日本の親子を、世界で一番見つめてきた写真家
ブルース・オズボーンが出会った、ありのままの
親子の姿。昨日の自分と明日の自分に出会えます。

www.oyako.org/jp/movie

出演：BRUCE OSBORN 仲野 茂 大林宣彦 三浦豪太 コシノジュンコ 広河隆一 鳥越俊太郎
PETER BARAKAN 元木行哉 佐々木裕美 佐々木 凱 CHRIS PEPPLER (ナレーション) 他

監督：イノマタトシ(猪股敏郎) 総合プロデューサー：井上佳子 脚本：渡辺 熱

プロデューサー：石井正人 関 智 音楽：Morgan Fisher Rickie-G CHAN-MIKA 演田貴司 吉村龍太
協賛協力：オリンパス株式会社 オーティコン株式会社 株式会社空同視事 空同組合日本写真家協会 下松フィルムコミッション 株式会社同格プロダクション
制作：親子の日普及推進委員会



7月の第4日曜日は
親子の日

「親子の日」は、「生まれて初めて出会う「親」と「子」の関係を見つめ、家族、地域、社会、そして自然をも含むすべての「環境」に敬意を払い、平和を願う」という思いを込めて、
2003年に写真家のブルース・オズボーンが7月第4日曜日を「親子の日」として提案。多くの企業、団体、個人の協力を得て運営しています。 <http://www.oyako.org>

「親子の日」10周年プロジェクト

映画「OYAKO」上映会の案内

-present to the future-

OYAKO

第39回 2014 JPS 展覧会

テーマ「写真の可能性」～ソーシャルアクションとしての「親子の日」～

講師：ブルース・オズボーン | 東京都写真美術館 1F ホール

5月17日(土) 15:00～16:30 | 定員100名(申込み不要・先着順・無料)

主催：公益社団法人日本写真家協会



● 木下尚江・小島節子



● 大島優子・千原しのぶ



5月31日(土)～6月4日(水)

休映日 ▶ 6月2日(月) ※会場休館日のため

上映時間 ▶ 11:00～ | 13:30～ | 16:00～ | 18:30～

- 各回入場は、上映の15分前から行います。
- 入場は整理番号順となります。
- 入場整理番号受付は、ご購入日より開始致します。
- 入場整理番号受付は、ご購入日より開始致します。
- 入場整理番号受付は、ご購入日より開始致します。

会場【東京都写真美術館ホール】

JR東北新幹線浦口駅より徒歩7分、地下鉄日比谷線東比海駅より徒歩10分/東比海ガーデンプレイス内



TEL 03-3280-0099 (代) <http://www.syabi.com>

一般：当日 ¥1,200 (前売券 ¥1,000)
小・中・高校生：当日 ¥600 (前売券 ¥500)

- 乳幼児無料
- 入場整理番号順/入場整理番号受付/全席自由
- 上映後のモニタークショーなども企画中！ (上映日は未定)
- 「親子の日」ホームページ <http://www.oyako.org/jp/movie> をご覧ください。
- チケットは下記ホームページでお手続ください。前売券をご購入いただくか、当日、東京都写真美術館ホール受付にて当日券をご購入ください。
- 前売券のご購入は下記から

● イープラス チケット

購入ページ URL (パソコン/スマートフォン/携帯共通)
<http://eetplus.jp/cys/TTU14P0010443P006001P00214305P0032001>

● 前売券をご購入いただいたお客様についても、当日先着順での入場となります。前売券をご持参の上、当日、ホール受付にて入場整理番号券をお受け取りください。

● 親子の日普及推進委員会
お問合せ
● 今回の上映会について
株式会社文化計画 03-3388-6452
● 映画について
〒240-0199 神奈川県三浦郡葉山町 葉山郵便局私書箱 13号
親子の日普及推進委員会 映画「OYAKO」製作プロジェクト
eメールの場合: info_oyako@oyako.org
<http://www.oyako.org/jp/movie>

◆ あらすじ

30年ほど前、ロサンゼルスで活躍していたフォトグラファー、ブルース・オズボーンが日本に来日した。彼は外国人の視点で日本を新鮮に捉え、注目を浴びた。雑誌でモヒカンのパンクロッカーを撮ることになり、母親と一緒に彼を撮影した。ギャップを阻んだはずの写真に写し出されたのは、親子の一体感。それ以来、彼は、4500組もの親子写真を撮り続ける。英語にない「OYAKO」という言葉の中に日本独自のカルチャーを発見した彼は、日本人の親子関係に深く興味をもっていく。2003年には「親子の日」を提唱し、親子の大切さを社会に問いかける活動もはじめる。2011年、東日本大震災が起こると被災地を訪ね親子写真を撮るプレゼントした。親子写真を撮り続けるうちに彼は「日本の親子」の中に世界に贈るべき大切なメッセージを発見していく。瀬戸内海の島での親子のストーリーを交えながら、写真を通して日本の親子をさまざまなアングルから見つめる映画。

◆ ブルース・オズボーン(写真家・「親子の日」オリジナルアーティスト)のメッセージ

今、私達に求められていること、それは親子というベシックで誰でも平等に与えられた関係を再確認すること。それは存在することへの自信を取り戻すことでもあり、人類として地球環境を大切にするという思いへとつながることです。「親子の日」に込めた思いは、未来への贈り物ー present to the futureーです。この映画「OYAKO」が、親子についてあらためて考えるきっかけになって欲しいと思っています。

◆ イノマタトシ(撮影監督)のメッセージ

この映画は、外国人カメラマン、ブルース・オズボーンが見つめた日本の「親子についての映画」であり、30年間、親子を撮り続けた彼のロードムービーでもある。映画は、彼の親子写真の活動のドキュメントと親子のインタビュー、それに親子の物語を交えた構成で、新しいスタイルのドキュメンタリーをめざした。この映画を通して、日本の親子関係を見つめ直し、自分の親子関係の中になにかを発見してもらえれば、嬉しい。

◆ 映画「OYAKO」の企画・制作にあたって

「親子」という言葉に感銘を受けた写真家ブルース・オズボーンが提唱した「親子の日」。その思いに共感し、活動をサポートしようという有志が集まった親子の日普及推進委員会は、「親子の日」が10周年を迎えることを記念して、映画「OYAKO」の制作に取り組みました。映画「OYAKO」には、日本固有の概念とも見える「親子」の価値を再発見し、周りの人びと、また他国の人びとに、この素晴らしい価値観を伝えて欲しい、との願いが込められています。制作にあたっては、これまで「親子の日」を応援して来てくださった賛賛企業の方々と、多くの個人の目標のバックアップが大きな力となりました。また、クラウドファンディングという新しい資金調達方法にもチャレンジし、200名以上の方々からの申し込みを得て、目標の300万円を達成することができました。こうした一人一人の小さな思いを集めた映画、それが「OYAKO」なのです。

